

日本大学・医学部Ⅱ期(二次試験)

試験日 2023年3月17日 時間 60分 **数学Ⅰ** **数学Ⅱ** **数学Ⅲ** **数学A** **数学B** (数列, ベクトル)**1** 次の定積分の値を求めなさい。

(1) $\int_0^{\frac{2}{3}} (3x-2)^5 dx$

(2) $\int_0^{\frac{\pi}{12}} \sin x \cos x dx$

(3) $\int_1^{\log 2} e^{5x} dx$

(4) $\int_0^1 \frac{x^2+10x+26}{x+5} dx$

2 曲線 $y = x^4$ 上の点列 $P_1(x_1, y_1), P_2(x_2, y_2), \dots, P_n(x_n, y_n), \dots$ を考える。ただし、

$1 = x_1 < x_2 < \dots < x_n \dots$ とする。原点を O とし、線分 OP_1 と曲線の弧 OP_1 とで囲まれる部分の面積を S_1 とし、また、線分 OP_{n-1} と線分 OP_n と曲線の弧 $P_{n-1}P_n$ とで囲まれる部分の面積を $S_n (n = 2, 3, \dots)$ とする。以下の問いに答えなさい。

(1) S_1 を求めなさい。(2) $n = 2, 3, \dots$ に対して、 S_n を x_n と x_{n-1} を用いて表しなさい。(3) $S_1, S_2, \dots, S_n, \dots$ が公比 $\frac{31}{32}$ の等比数列になっているとする。 n が限りなく大きくなるとき、点 P_n はある点に限りなく近づくが、その点の座標を求めなさい。**3** 原点 O の座標平面上に楕円 $C: \frac{x^2}{9} + \frac{y^2}{4} = 1$ および直線 $l: y = -2x + k$ がある。このとき、以下の問いに答えなさい。(1) C と l が共有点をもつときの k の取り得る値の範囲を求めなさい。(1) で求めた範囲のうち、 k の最大値を Max 、最小値を Min で表すこととする。また、 $k = \text{Max}$ となるときの共有点を A で表す。(2) $\text{Min} < k < \text{Max}$ を満たす k に対して、 C と l の2つの交点の中点を P とする。さらに、点 P を通り l に垂直な直線が C と交わる2点の中点を Q とする。 P, Q の座標を k を用いて表しなさい。(3) (2) の P, Q に対して、三角形 APQ を作り、その面積を S とする。 S を k の式で表し、 $0 \leq k \leq \text{Max}$ の場合に S の最大値を求めなさい。**1** **数学Ⅲ** 【定積分】 **基本**

▶解答◀ (1) $\int_0^{\frac{2}{3}} (3x-2)^5 dx$

$$= \left[\frac{1}{3} \cdot \frac{1}{6} (3x-2)^6 \right]_0^{\frac{2}{3}} = -\frac{64}{18} = -\frac{32}{9}$$

(2) $\int_0^{\frac{\pi}{12}} \sin x \cos x dx = \int_0^{\frac{\pi}{12}} \sin x (\sin x)' dx$

$$= \left[\frac{1}{2} \sin^2 x \right]_0^{\frac{\pi}{12}} = \frac{1}{2} \sin^2 \frac{\pi}{12}$$

$$= \frac{1}{4} \left(1 - \cos \frac{\pi}{6} \right) = \frac{1}{4} - \frac{\sqrt{3}}{8}$$

(3) $\log 2 = a$ とおく。 $e^a = 2$ である。

$$\int_1^a e^{5x} dx = \left[\frac{1}{5} e^{5x} \right]_1^a$$

$$= \frac{1}{5} (e^a)^5 - \frac{1}{5} e^5 = \frac{32}{5} - \frac{1}{5} e^5$$

(4) $\int_0^1 \frac{x^2+10x+26}{x+5} dx = \int_0^1 \frac{(x+5)^2+1}{x+5} dx$

$$= \int_0^1 \left(x+5 + \frac{1}{x+5} \right) dx$$

$$= \left[\frac{1}{2} x^2 + 5x + \log |x+5| \right]_0^1 = \frac{11}{2} + \log \frac{6}{5}$$

2 **数学Ⅲ** 【数列の極限】 **標準****▶解答◀** (1) $Q_n(x_n, 0)$ とおく。

$$S_1 = \triangle OP_1Q_1 - \int_0^1 x^4 dx$$

$$= \frac{1}{2} - \left[\frac{1}{5} x^5 \right]_0^1 = \frac{1}{2} - \frac{1}{5} = \frac{3}{10}$$

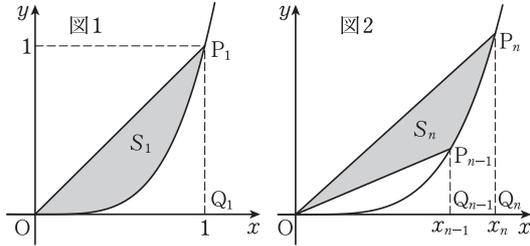
(2) $S_n = \triangle OP_nQ_n - \triangle OP_{n-1}Q_{n-1} - \int_{x_{n-1}}^{x_n} x^4 dx$

$$= \frac{1}{2} \cdot x_n \cdot x_n^4 - \frac{1}{2} \cdot x_{n-1} \cdot x_{n-1}^4 - \left[\frac{1}{5} x^5 \right]_{x_{n-1}}^{x_n}$$

$$= \frac{1}{2} (x_n^5 - x_{n-1}^5) - \frac{1}{5} (x_n^5 - x_{n-1}^5)$$

2 日本大学・医学部Ⅱ期 (二次試験)

$$= \frac{3}{10}(x_n^5 - x_{n-1}^5)$$



(3) $r = \frac{31}{32}$ とおく. (1) より

$S_n = S_1 r^{n-1} = \frac{3}{10} r^{n-1}$ であるから, (2) より

$$\frac{3}{10} r^{n-1} = \frac{3}{10}(x_n^5 - x_{n-1}^5)$$

$$x_n^5 - x_{n-1}^5 = r^{n-1}$$

であり, $n \geq 2$ に対して

$$x_n^5 - x_1^5 = \sum_{k=1}^{n-1} r^k$$

$$x_n^5 = 1 + r \cdot \frac{1 - r^{n-1}}{1 - r}$$

$$x_n = \sqrt[5]{1 + \frac{r}{1-r}(1 - r^{n-1})}$$

$$\begin{aligned} x_n^5 - x_{n-1}^5 &= r^{n-1} \\ x_{n-1}^5 - x_{n-2}^5 &= r^{n-2} \\ &\vdots \\ x_4^5 - x_3^5 &= r^3 \\ x_3^5 - x_2^5 &= r^2 \\ x_2^5 - x_1^5 &= r \end{aligned}$$

$0 < r < 1$ であるから

$$\lim_{n \rightarrow \infty} x_n = \sqrt[5]{1 + \frac{r}{1-r}} = \sqrt[5]{1 + 31} = \sqrt[5]{32} = 2$$

よって, 求める座標は (2, 16)

3 **数学Ⅲ** 【楕円】 **標準**

▶ **解答** ◀ (1) C と l の方程式を連立し

$$\begin{aligned} 4x^2 + 9(-2x + k)^2 &= 36 \\ 40x^2 - 36kx + 9(k^2 - 4) &= 0 \dots\dots\dots \textcircled{1} \\ x &= \frac{18k \pm \sqrt{4 \cdot 9(40 - k^2)}}{40} \end{aligned}$$

$-2\sqrt{10} \leq k \leq 2\sqrt{10}$ である.

(2) P の x 座標を p とおく. C と l の 2 つの交点の x 座標は $\textcircled{1}$ の 2 解であるから, 解と係数の関係より

$$\begin{aligned} p &= \frac{1}{2} \cdot \frac{36k}{40} = \frac{9}{20}k \\ y &= -2p + k = -\frac{9}{10}k + k = \frac{1}{10}k \end{aligned}$$

である. よって, P の座標は $(\frac{9}{20}k, \frac{1}{10}k)$

P を通り l に垂直な直線 m の方程式は

$$\begin{aligned} y - \frac{1}{10}k &= \frac{1}{2}(x - \frac{9}{20}k) \\ y &= \frac{1}{2}x - \frac{1}{8}k \quad \therefore x = 2y + \frac{1}{4}k \end{aligned}$$

である. C と m の方程式を連立すると

$$\begin{aligned} 4(2y + \frac{1}{4}k)^2 + 9y^2 &= 36 \\ 25y^2 + 4ky + \frac{1}{4}k^2 - 36 &= 0 \dots\dots\dots \textcircled{2} \end{aligned}$$

となる. Q の y 座標を q とおく. C と m の 2 つの交点の y 座標は $\textcircled{2}$ の 2 解であるから, 解と係数の関係より

$$\begin{aligned} q &= \frac{1}{2} \cdot (-\frac{4k}{25}) = -\frac{2}{25}k \\ x &= 2q + \frac{1}{4}k = 2 \cdot (-\frac{2}{25}k) + \frac{1}{4}k = \frac{9}{100}k \end{aligned}$$

である. よって, Q の座標は $(\frac{9}{100}k, -\frac{2}{25}k)$

(3) A の x 座標を a とおく. a は $k = 2\sqrt{10}$ のときの $\textcircled{1}$ の重解であるから

$$\begin{aligned} a &= \frac{18k}{40} = \frac{18 \cdot 2\sqrt{10}}{40} = \frac{9\sqrt{10}}{10} \\ y &= -2a + 2\sqrt{10} = -\frac{9\sqrt{10}}{5} + 2\sqrt{10} = \frac{\sqrt{10}}{5} \end{aligned}$$

である. よって, $A(\frac{9\sqrt{10}}{10}, \frac{\sqrt{10}}{5})$ であるから, A から

$m: x - 2y - \frac{1}{4}k = 0$ の距離 h は

$$\begin{aligned} h &= \frac{1}{\sqrt{1+4}} \left| \frac{9\sqrt{10}}{10} - 2 \cdot \frac{\sqrt{10}}{5} - \frac{1}{4}k \right| \\ &= \frac{1}{\sqrt{5}} \left| \frac{\sqrt{10}}{2} - \frac{1}{4}k \right| = \frac{1}{4\sqrt{5}} |k - 2\sqrt{10}| \end{aligned}$$

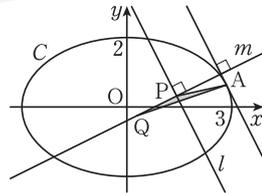
である. また, m の傾きが $\frac{1}{2}$ であることから

$$\begin{aligned} PQ &= \frac{\sqrt{5}}{2} \left| \frac{9}{20}k - \frac{9}{100}k \right| = \frac{9\sqrt{5}}{50} |k| \\ S &= \frac{1}{2} \cdot PQ \cdot h = \frac{1}{2} \cdot \frac{9\sqrt{5}}{50} |k| \cdot \frac{1}{4\sqrt{5}} |k - 2\sqrt{10}| \\ &= \frac{9}{400} |k(k - 2\sqrt{10})| \end{aligned}$$

であるから, $0 \leq k \leq 2\sqrt{10}$ のとき

$$S = -\frac{9}{400}k(k - 2\sqrt{10}) = -\frac{9}{400}(k - \sqrt{10})^2 + \frac{9}{40}$$

となり, S は $k = \sqrt{10}$ のとき最大値 $\frac{9}{40}$ をとる.



◆ **要の分析** すべての大問が数学Ⅲの分野からの出題であったが, **2**, **3** は数学Ⅲの色が薄く, 難問はない.

(SM, 渡邊, 都賀, 坂本賀, 前田拓, 安田亨)